

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101306		
法人名	社会福祉法人 桐紫苑		
事業所名	グループホーム たもぎの A棟		
所在地	青森県青森市大字幸畑字阿部野50-1		
自己評価作成日	平成24年6月26日	評価結果市町村受理日	平成24年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成24年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に囲まれた中で、ゆったりと家庭的で笑顔あふれる生活を支援します。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム周辺の自然と、法人内の様々な施設の利点を活かし、地域との関わりを大事にしながら、日々のケアを行っている。 今年度からは各ユニットに一人ずつ管理者が置かれ、三人の管理者が互いに協力し合い、より良い体制作りをしていこうと積極的に取り組まれている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念を玄関に掲示している。職員一人ひとりが理念に照らし合わせた介護を目指し、思いやりと優しさをモットーに、家庭的な雰囲気を重視している。	ホーム全体のユニット会議で話し合い、独自の理念を作成しており、各棟の玄関やスタッフルームに掲示する等して共有化を図っている。職員は、地域に助けられていることに感謝し、地域に馴染むことを心に留めながら、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から、近隣の人達に気軽に立ち寄りもらえるように関わり合いながら、ホームを理解してもらい、交流をしている。	開設当初から民生委員や町会の婦人部、近隣の他施設等に働きかけを行っており、折に触れて立ち寄っていただいている他、法人内施設合同の行事には地域の人達も招待している。また、地域の獅子舞の来訪や歌・踊り・三味線の披露等、地域との多くの交流が定着し、継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部から人を受け入れる時は、利用者のプライバシーに十分配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の継続の他、老人会行事への参加等、地元の方々との交流に努めている。また、管理者が時々幸畑地区の交番を訪問し、巡回等の協力を依頼している。	事前に議題を決め、民生委員や町会長、地域包括支援センター等に案内を送付し、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。外部の視点が入ることによってホームの運営に良い刺激となっており、出席者からはできるだけ意見を引き出せるように働きかけ、今後の取り組みにつなげるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月入居状況の報告の他、分からない事や必要な事は電話やファックス等で問い合わせ、連絡をしている。また、必要と判断した書類については職員全員に伝達している。	市への報告をこまめに行っている他、制度に関することや事例についての具体的な相談等、疑問なことがあれば、市や地域包括支援センターに問い合わせるようにしている。ホーム便りは3ヶ月に1回手書きで作成し、各棟に掲示しているが、配布するまでには至っていない。	ホーム内の掲示に留まっている広報誌等を配布することにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は事故防止について学び、常に気配りする事で身体拘束をしていない。 また、玄関に鍵を掛けていない。	全職員は「身体拘束は行わない」という姿勢で取り組んでおり、ホーム内研修で身体拘束について勉強する機会を作り、資料を配布する等して理解を深めている。玄関は施錠せずに鈴を付けており、職員の連携によって外出傾向の察知に努め、必要に応じて散歩の付き添い等をしている。やむを得ないと判断する場合に備え、「身体拘束廃止要綱」を定め、書類を準備しているが、これまで実際に身体拘束を行った事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修に参加して、マニュアルも作成している。また、職員皆で共有し、虐待が見過ごされないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修等に参加して理解しているが、今は制度を活用している方がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問を尋ね、十分な説明をしている。そして、希望や要望を取り入れるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者を置いて、速やかに対策を検討し、改善に努めている。	各ユニット入り口に苦情相談窓口を掲示し、意見箱を設置している。面会時に状況報告や提案をして、家族からの意見や希望等を聞き、日常のケアに反映させるようにしている。また、利用者の意見や希望については、日々のケアを通して把握できるように心がけている。また、面会の少ない利用者家族へは、行事の際の写真と一緒に状況報告を郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	苦情相談担当者は、いつでも相談できるような体制で対応をしている。また、管理者は面会時に運営に関する意見を積極的に聞くようにしており、職員皆で改善するようにしている。	気付いたことは随時管理者に話すことができ、必要に応じてミーティングで取り上げたり、申し送りノートを活用する等して情報の共有化を図っている。3ヶ月に1回の全体会議でも業務に関する話し合いを行い、時間がオーバーする程活発な意見交換がされている。また、職員の希望や利用者との関係を考慮した上で、ユニット間での異動を柔軟に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を整備している。また、職員の日々の努力や勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	より多くの職員が研修に参加できるように積極的に取り組んでいる。研修後は学習会を行い、職員皆で学んだ事を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホームとの交流や情報交換を行っている。また、他のグループホームの見学等をしており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談を受けた後、本人・家族に会い、要望・希望を受け止め、出来る限り満たすことが出来るように話し合い、実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族との信頼関係を築く事を介護目標にし、職員皆で努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の利用希望者や家族のニーズに対し、必要なことを見極め、対応できることは柔軟に実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家庭的な雰囲気の中で利用者と一緒に過ごしながら、支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員全員が家族の立場を理解し、家族と一緒に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	入居時に家族や本人、ケアマネージャー等から馴染みの人や場所の情報収集を行っている他、入居後も日々のケアや会話を通して、新しい情報や希望の変化等を把握するように心がけている。また、家族へ電話をかけるお手伝いをする等、できるだけ利用者の希望を叶えられるよう、家族の協力も得ながら、関係継続の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居時に、必ず入居している皆さんに紹介し、受け入れてもらえるように配慮している。また、日常的に声掛けをし、利用者が孤立しないように気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した時は、お見舞い・面談をすることで状況把握をし、家族や医療機関との連携を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向等が十分に把握できるように、全職員が利用者の視点に立って、意向を把握するように努めている。	担当制はとらず、全職員の日々のケアの中での気付きを大切にしており、個々の思い、希望、意向の把握に努めている。家族が面会に来た際の会話等からも情報が得られるよう、積極的に働きかけを行い、得た情報は申し送りを通して、職員間で共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・在宅介護支援センターのケアマネ・医療機関より情報を提供していただき、反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の暮らし方、生活リズムや利用者の出来る事、出来ない事を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は利用者の状態や利用者及び家族の希望に変化がないか、常に観察や把握するような取り組みを行っている。	日頃から、利用者や家族の意見や希望等を聞くように努めており、全職員の気付きや職員会議・申し送り等で取り上げられた内容を集約し、個別の介護計画を作成している。6ヶ月の期間設定で、モニタリングや再アセスメントを行い、家族の承認を得るようにしている。また、利用者の状況変化や家族の希望に応じて、必要な時には随時見直しを行う体制である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践状況や職員の気づき、工夫等について記録をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はサービスの多機能化のための取り組みは行っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員等に協力を呼びかけている。また、幸畑地区の交番にも協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。	月2回、協力医院の往診があり、薬剤師も同行している。入居時の話し合いで、希望があれば、かかりつけ医への受診支援を行い、受診結果は随時電話や郵送で報告している。また、家族が対応可能な場合には家族に付き添いをお願いし、状況説明のために職員も同行している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の身体状況に変化があった時、看護師に報告し、指示を受けている。(24時間対応)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と、利用者に関する情報交換を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の利用者が、日々、より良く暮らせるように、ホームで出来る事を見極め、かかりつけ医と連携し、支援している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」があり、常勤看護師1名を配置して、夜間の連絡体制も整えている。実際に重度化や終末期に対応した事例はないが、急変時には入院し、退院時の状況によってホームでの対応が困難であれば、法人内の老人保健施設への入所となるような体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時には職員皆が対応できるように、緊急時対応マニュアルを作成し、実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の頻度で日中及び夜間を想定し、避難訓練を実施している。	日中・夜間を想定し、年2回(春と秋)、業者立ち合いの下で避難訓練を行い、消防署への報告を行っている。また、年1回、業者委託で消火器・スプリンクラー・非常灯等の防災設備の点検を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーに配慮している。また、利用者の言動を理解して、否定したり、拒否をしないように努めている。	羞恥心や自尊心に配慮し、声かけの仕方や言葉遣いには気を付け、不適切な言動が見られた時には管理者が注意をしている。職員は利用者のペースに合わせた支援に努めており、排泄介助時は小声で話しかけ、周囲の目に触れないような場所へと誘導する等して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、利用者一人ひとりのわかる力を発見出来るように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合やスケジュールではなく、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを聞いたり、化粧を勧めたり、おしゃれを楽しめるように働きかけをしている。 また、ホームに来所する床屋を利用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしゃべりをしながら食事の準備をする人、後片付けをしてくれる人がいて、楽しくやっている。また、職員も一緒にテーブルで食事をし、会話も弾んで、食事時間を楽しめる環境となっている。	献立は法人内の栄養士が作り、食材は前日に母体施設へ取りに行っている。苦手な物等には缶詰や佃煮等を用意し、ホームなりの工夫も加えて提供している。また、個々の能力と希望に応じて、テーブル拭きや下膳等を手伝ってもらい、職員は一緒に席につき、食べこぼしの介助や声かけ、会話の取り持ち等しながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量と水分摂取量を記録し、把握している。嚥下機能が低下した人には調理や介護方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の手入れの必要性を理解し、毎食後に口腔内の洗浄や手入れを一緒に行ったり、声掛けをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録しており、パターンに応じて誘導し、自立に向けた支援をしている。 また、失敗時の対応はプライバシーに配慮して行っている。	排泄介助が必要な利用者に関しては、個人ファイルに排泄状況を記入している。日中・夜間で紙オムツ・紙パンツやパット等を使い分け、個々のパターンに合わせたトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を心がけている。トイレ誘導時の声かけは周囲に気付かれないよう、小声で、工夫しながら行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食材やメニューの工夫、水分補給を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の意向を取り入れると共に、プライバシーが保たれるように配慮している。	個々の入浴習慣や好みを把握し、体調に支障のない範囲で希望通りの入浴を楽しめるように支援している。一対一の介助を基本とするが、希望により、仲良し二人での入浴もある。また、入浴拒否が見られた場合には時間を置いたり、声かけを工夫しているが、無理には勧めず、曜日を変えて柔軟に対応し、一人週2回は入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない利用者につき添ったり、温かい飲み物を提供する等の対応をしている。また、必要に応じて家族や医療機関と相談し、眠剤の服用をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容や副作用について把握しており、指示通り、正しく与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合った役割や楽しみ事を促すようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら、時々外出の機会を作っている。	個々の状態に合わせた移動方法や移動距離にも配慮し、お花見や近くの観光りんご園、ドライブや圏域のグループホーム合同で開催する歌謡ショー等、利用者の希望を聞きながら、外出を支援している。また、天気の良い日には敷地内の散歩をして周囲の自然を味わい、日常的に気分転換が図られるような支援を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量や希望に配慮しながら、金銭(小遣い程度)を所持出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に来る電話や手紙を歓迎している。また、利用者が家族や知人に電話や手紙を送る時には支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の草花を飾ったり、手作りの物を飾り、生活感や季節感を取り入れ、家庭的な雰囲気になっている。	各ユニット毎に広々としたホールがあり、ユニット間に扉はあるものの、自由に行き来ができるようになっている。ホール及び各居室には季節が感られるような造花や手作りの壁掛け等があり、家庭的な雰囲気が作られている。また、職員の作業音やテレビの音量等も騒がしすぎることなく、日中は利用者のほとんどが温度調整されたホールでのんびりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間同士が気兼ねなく、思い思いに、自由に過ごせるように工夫している。また、利用者が一人で過ごせる場作りもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込んでおり、一人ひとりにとって、心地よい居室となっている。	椅子・テーブル・仏壇等、希望の物を持ってきてもらい、心地よく穏やかに暮らせるような居室作りを支援している。利用者の意向を聞きながら、ホームで準備しているペット・タンスの配置を変えたり、職員と一緒に手づくりした作品を飾る等、工夫して、一人ひとりに合わせた居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所間違いを防ぐため、必要時に個々に合わせた表示を付ける等している。また、手すりや玄関にスロープを取り付けて対応している。		